



住所は明確に（アイデアやプランの社会的位置付け）

辻 多聞

知り合ってから数日、出会えば1時間くらい話して盛り上がり、昼食にも2人で出かけるようになった同性の友達、そんな友達に「どこに住んでいるの？」と尋ねたとします。「えっとねえ、日本!」、なんて答えられたら「（笑わすための）ネタですか？」と思うこと請け合いです。真顔で「山口市」みたいな回答をされたなら、あなたならどう感じますか？「この人、友達だと思っていたけど、住んでいるところも教えてくれないなんて…私のことあまり信用してくれていないのかなあ」って思ったりするのではないのでしょうか。さらに「住所も教えてくれないなんて、深い付き合いはできなさそうだな」とその人に興味がなくなってしまうかもしれません。その人を深く知りたい、もっともっとその人に興味を持ちたい（仲良くなりた）と思うのなら住んでいる場所が気になるのはいたって自然な感情だと思います。また、住所の情報を提供することは、もっと自分を知ってもらいたい、興味を持ってもらいたいという気持ちの表れの一つでしょう。反対にその情報を提供しない場合は、その人と一定の距離を保ちたい、そこまで自分に興味を持ってもらわなくてもよいという気持ちの表れと捉えられても仕方がないのかもしれませんが。

前月にてアイデアやプランが「おもしろく」あるために必要なことの一つとして、他者の共感があることを紹介しました。その共感を得る上で最初のきっかけであり重要となるものが「住所」、すなわち「そのアイデアやプランの社会的な位置付け」なのです。例えば「ゴミの分別回収」に関するアイデアやプランだとします。住所の構成を考えてみましょう。ご存じのように山口大学の住所は「山口県山口市吉田1677-1」です。このように住所はおおよそ、都道府県、市町村名、地域名、番地という感じで構成されています。言うなれば、大分類、中分類、小分類のように樹形図の階層構造になっています。例に挙げた「ゴミの分別回収」という部分は住所構成でいうならば「番地」に該当することになるでしょう。「環境問題」を念頭にした「ゴミの分別回収」もあれば、マナー向上のような「道德教育」からの「ゴミの分別回収」も考えられるからです。住所において山口大学の住所の番地である「1677-1」というのは全国に多数あるのと同じです。「環境問題」のなかの「地球温暖化問題」に対する「温暖化ガスの排出削減」の一環となる「ゴミの分別回収」と言えば、その「ゴミの分別回収」に関して「ああ、なるほどね」となんとなくイメージを持ってもらえるかと思えます。「道德教育」のなかの「マナー改善、向上」に対する「地域コミュニティ形成（コミュニケーション能力の向上）」に基づく「ゴミの分別回収」というのも一つのアプローチの仕方でしょう。自分の紹介したいアイデアやプランが、どのようなくくりでのものなのかを説明しなければ、聞き手はイメージがつきにくく、結果として興味をもってもらえないという可能性があります（興味を持ってもらえないと思ってよいと思います）。ここでは「アイデアやプラン」という形で紹介していますが、この概念は大学における卒業論文をはじめとする研究テーマや、企業での商品開発、プロジェクト等でも同様です。

ここで問題となるのが、大分類にはどんなキーワードがあって、中分類にはどんなキーワードがあるのか、ということ、反対に言えばそのキーワードは大分類のものなのか中分類なのか、はたまた小分類なのかという分類を行う能力です。同じキーワードでも大分類となったり小分類になったりもします。この分類能力を養うのが大学における学問と言ってもよいかと思えます。大学では一般教養と専門教養を履修します。一般教養では、自身の専門に限らず非常に幅広い視野にて知識を得ます。専門教養では自身の所属学部に応じた知識を習得します。自身の所属学部に応じた知識といってもこれはこれで幅広いものです。例えば、私が卒業した農学部では、作物学、植物病理学、昆虫制御学なども卒業要件として履修しなければなりません。私が卒業論文のテーマとした学問は農業気象学であるにも関わらずです。このように「これは自分の学びたい専門知識ではないなあ」と思う講義も多々あると思います（多分ほとんどの講義がそうなるはずです）。しかし、こうした幅広い講義でもって様々なキーワードを知ることによって、そのキーワードの分類を行うことができるのです。そしてその能力は社会に出て様々な情報を分類していくうえで非常に有用なものとなることを知っておいてもらいたく思います。

新型コロナに関して、街の雰囲気にて少し気が緩んでいるような気がするのでしょうか。重症化の人数や死亡者の人数の減少傾向にあり、発症時の医学的対応方法が確立されつつあることが分かります。ただし対応方法が確立されつつあるだけで、特効薬やワクチンなどが開発されたわけではありません。その観点では新型コロナにおびえていた3月や4月となんら状況は変わっていません。気を緩めることなくマスク着用、手洗いやうがいを励行して、体調管理には十分留意してもらいたく思います。

**おもしろプロジェクトに関するお問い合わせは
自主活動ルームにて受け付けています**